



出展作品の一部が変更となりました

文化庁メディア芸術祭国内巡回事業
佐賀県・炎の博記念堂で開催される
「有田現代アートガーデンプレイス 2013」で巡回企画を実施

「文化庁メディア芸術祭国内巡回事業」（企画・運営：一般財団法人NHKインターナショナル）では、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心としたメディアアート、映像、ウェブ、ゲーム、アニメーション、マンガ等の優れた作品を、国内各地のメディア芸術関連施設やフェスティバル等にて展示・上映しています。

9月14日（土）、15日（日）の2日間、佐賀県西松浦郡有田町で開催されるアートフェスティバル「有田現代アートガーデンプレイス 2013」において、歴代の受賞作品と審査委員会推薦作品の中から、佐賀県出身の漫画家による原画作品の展示や、九州を舞台にしたアニメーション作品の上映を行うほか、ガジェット作品の展示や映像作品、ワークショップ、アニメーション作品のプログラム上映を実施します。

*文化庁メディア芸術祭に関しては次頁を参照

■実施概要

文化庁メディア芸術祭国内巡回事業

「有田現代アートガーデンプレイス 2013」巡回企画（展示、上映、ワークショップ）

会期：2013年9月14日（土）、15日（日） 10:00～17:00

会場：歴史と文化の森公園 炎の博記念堂

入場無料

展示：

<原画展示> 『鈴木先生』（第11回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞）

<絵コンテ、設定資料展示（複製）> 『火要鎮』（第16回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞）

<設定資料展示（複製）> 『坂道のアポロン』（第16回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門審査委員会推薦作品）

<作品展示> 『ペタンコ麵棒』（第16回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門審査委員会推薦作品）

ワークショップ：「身の回りのものをペタンコにしてみよう」

上映：

『坂道のアポロン』テレビアニメーション 全12話の上映

「第16回文化庁メディア芸術祭受賞作品—映像プログラム—（60分）」

「第16回文化庁メディア芸術祭受賞作品—アニメーションプログラム—（60分）」

※このほか文化庁メディア芸術祭と第16回文化庁メディア芸術祭受賞作品を映像やパネルで紹介します。
また、マンガの閲覧コーナーも設置します。

主催：文化庁

協力：Arita Media Project、炎の記念堂

企画・運営：一般財団法人NHKインターナショナル

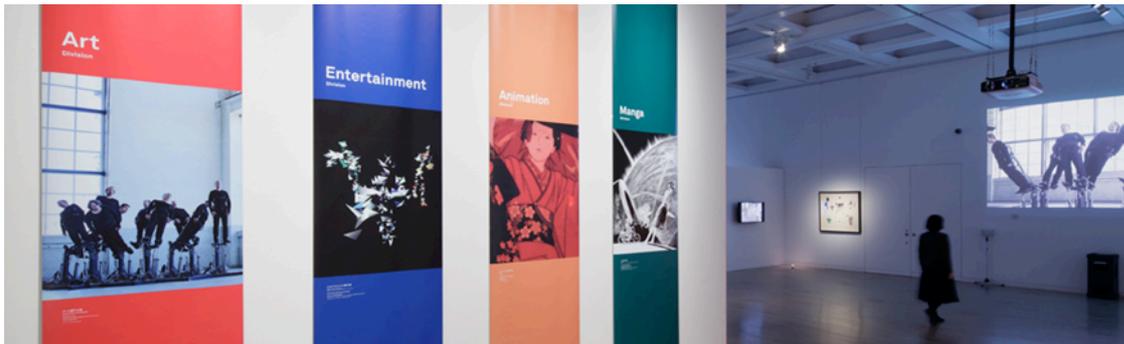
公式ウェブサイト：<http://jmaf-promote.jp/>



【文化庁メディア芸術祭について】

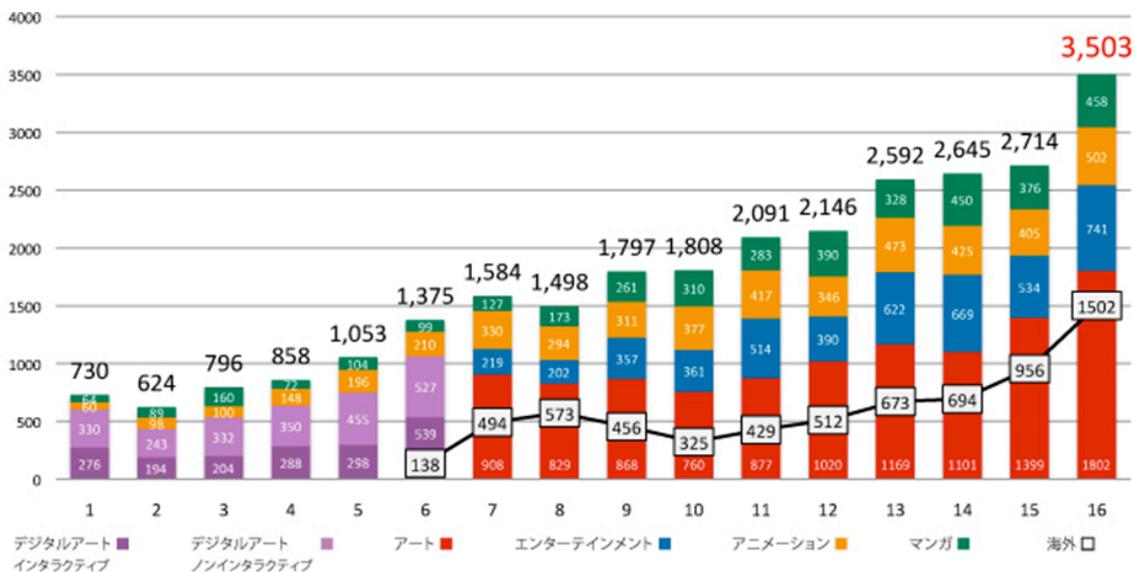
文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を表彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度（1997年）の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を表彰し、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。昨年度【第16回】は、過去最多となる世界72の国と地域から3,503点に及ぶ作品の応募があり、文化庁メディア芸術祭は国際的なフェスティバルへと成長を続けています。

また、文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を国内外で広く紹介する多彩な事業を実施しています。海外・国内展開をはじめ、創作活動支援や連携推進までを含む関連事業を通し、次代を見据えたフェスティバルを目指しています。



平成24年度【第16回】文化庁メディア芸術祭受賞作品展

文化庁メディア芸術祭応募作品数の推移（第1回～第16回）





【「有田現代アートガーデンプレイス 2013」について】

日本の伝統工芸品のひとつである有田焼の産地として知られる佐賀県・有田町。「有田現代アートガーデンプレイス」は、製陶技術と映像表現技術を概観する現代アートのイベントで、今年で9回目の開催を迎えます。

今回のテーマは「マナビトクリエイト」。

陶磁器や絵画、彫刻、映像などの作品を展示するほか、有田工業高校デザイン科 50周年を記念し、パッケージデザインなどを通して地域と連携した商品開発を行った卒業制作や、近年のプロジェクトワークを再構成した企画展が開催されます。



炎の博記念堂



昨年度ワークショップの様子

【NHKインターナショナル】

NHKインターナショナルでは、文化庁が主催する文化庁メディア芸術祭の関連事業である「国内巡回事業」の企画運営を受託し、日本のメディア芸術の発展に努めています。



**[文化庁メディア芸術祭国内巡回事業
「有田現代アートガーデンプレイス 2013」巡回企画について]**

会期：9月14日（土）、15日（日）10：00～17：00

会場：歴史と文化の森公園 炎の博記念堂

入場無料



■展示

会期：9月14日（土）、15日（日）10：00～17：00

会場：炎の博記念堂

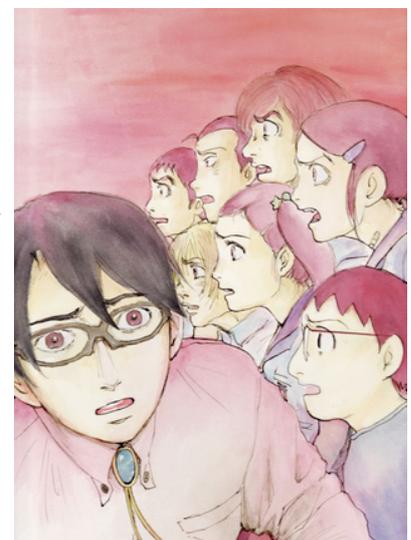
<原画展示>

『鈴木先生』

武富 健治

マンガ（第11回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞）

佐賀県出身の武富健治氏の代表作。生徒の引き起こす問題に対して、ひたすら苦悩する若き中学校教師・鈴木先生。どこにでもいそうな平凡な教師が、どこでも起こりえる問題について、過剰に悩みつつも、解決していこうとする姿をリアルに描いた作品。



©武富 健治/双葉社



<絵コンテ、設定資料（キャラクターデザイン・美術背景）展示（複製）>
『火要鎮』

大友 克洋

短編アニメーション（第16回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞）

18世紀中頃の江戸の町。商家の娘「お若」と幼馴染の「松吉」。惹かれ合う2人であったが、松吉は家を勘当され町火消しとして生きる。そんなさなか、お若の縁談の話が進み始めた。松吉への思いを忘れられない彼女の狂った情念からの行動は、大火事を引き起こし江戸の町を焼き尽くす。その大火のなかで再びめぐり合う2人。巨大都市江戸の大火を舞台としたスペクタクル。本作は、伝統的な日本画の画風を映像表現のモチーフとし、舞台である300年前の東京（江戸）の風俗や道具、生活を再現する描写にこだわった。また、作画のアニメーションの表現と3DCGによる表現を融合させ、斬新な映像表現を実現した。



©SHORT PEACE COMMITTEE

<設定資料（キャラクターデザイン）展示（複製）>
『坂道のアポロン』

渡辺 信一郎

テレビアニメーション（第16回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門審査委員会推薦作品）

有田町の西に接する長崎県佐世保市を舞台にしたテレビアニメーション。小玉ユキ原作によるマンガ『坂道のアポロン』を渡辺信一郎（監督）×菅野よう子（音楽）によりアニメーション化。1960年代の長崎・佐世保を舞台に、ナイーブな転校生「薫」が破天荒なクラスメイト「千太郎」、そしてJAZZと出会い成長していく。友情・恋心・音楽がまぶしく交錯する青春群像劇。



©KIDS ON THE SLOPE committee ©Yuki Kodama, Shogakukan



< 作品展示 >

『ペタンコ麺棒』

中垣 拳/今野 恵菜/田代 俊太郎/池澤 彩野花/木村 優作/仁義 勝/寛 康明
ガジェット (第16回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門審査委員会推薦作品)

粘土や空き缶など、物体を潰し変形させる行為には独特の快感が伴う。本作品は、身の回りの物体を粘土のように自由に潰して伸ばす感触を味わえるエンターテインメント装置である。3D スキャンされた物体の映像の上に麺棒型デバイスを転がすことで、摩擦や形状の変化を、触覚的に感じ取ることができる。



©NAKAGAKI Ken/KAKEHI Yasuaki

■ワークショップ

「身の回りのものをペタンコにしてみよう」

あらゆる物体を粘土のように自由に潰して伸ばす感触を味わえる装置『ペタンコ麺棒』。本ワークショップでは、参加者が持参したさまざまな物を映像にスキャンし、麺棒型デバイスで“潰して伸ばす”体験をします。モノをペタンコに潰すという身近な経験をバーチャルに体感しながら、物体にある摩擦や形状の変化を触覚的、視覚的に提供する VR システムについて学ぶことができます。日用品を用いて、楽しみながら作品の世界に触れることができます。

日時：9月15日(日) 15:00~16:00

会場：『ペタンコ麺棒』展示ブース

対象：小学生以上

定員：10名(先着順)

申込方法：下記メールにて受け付けます。9月14日(土)までにお名前、年齢、ご連絡先をお送りください。定員になり次第、締め切らせていただきます。

E-mail : acagp_arita@yahoo.co.jp

講師：

中垣 拳

1990年生まれ。2013年慶應義塾大学総合政策学部卒。現在、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科在籍中。主に日用品を拡張するタンジブルインターフェースやエンターテインメントメディアの研究や作品制作を行う。主な受賞に、第19回国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト(IVRC2011)総合優勝、文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門審査委員会推薦作品選出など。<http://ken-nakagaki.com>

木村 優作

1991年生まれ。主に自然現象や自然物に注目したインスタレーション作品を制作する。慶應義塾大学環境情報学部在籍中。主な受賞に、第19回国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト(IVRC2011)総合優勝、文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門審査委員会推薦作品選出など。



■上映

会場：炎の博記念堂 文化ホール

●『坂道のアポロン』テレビアニメーション全12話上映

日時：

9月14日(土) 12:00~14:15 第1話~第6話 連続上映

9月15日(日) 11:00~13:15 第7話~第12話 連続上映

●「第16回文化庁メディア芸術祭受賞作品—映像プログラム—(60分)」

国内外から作品を広く募集し、優れた作品を顕彰するメディア芸術の総合フェスティバルである文化庁メディア芸術祭。平成24年度〔第16回〕アート、エンターテインメント、アニメーション各部門の受賞作品と審査委員会推薦作品の中から、短編アニメーションやビデオアート、ミュージックビデオなどの短編映像作品及び、優れたプロジェクトの紹介も含めて編成した8作品、60分のプログラムを上映します。

日時：

9月14日(土) 10:00~11:00、16:00~17:00

9月15日(日) 15:00~16:00

上映作品一覧

作品名	作家名	カテゴリー	時間
永野 亮「はじめよう」 エンターテインメント部門新人賞	新井 風愉	ミュージックビデオ	6'43"
石橋 英子「imitation of life」 エンターテインメント部門審査委員推薦作品	TAKCOM	ミュージックビデオ	4'15"
ハイスイノナサ「地下鉄の動態」 エンターテインメント部門新人賞	大西 景太	ミュージックビデオ	4'22"
開かれた遊び、忘れる眼 アート部門審査委員会推薦作品	ALIMO	映像作品	8'39"
就活狂想曲 アニメーション部門審査委員会推薦作品	吉田 まほ	短編アニメーション	7'27"
布団 アニメーション部門新人賞	水尻 自子	短編アニメーション	6'02"
グレートラビット アニメーション部門優秀賞	和田 淳	短編アニメーション	7'12"
火要鎮 アニメーション部門大賞	大友 克洋	短編アニメーション	12'43"

プログラム監修：村上 寛光（東京藝術大学大学院映像研究科助教）



●「第16回文化庁メディア芸術祭受賞作品—アニメーションプログラム— (60分)」

国内外から作品を広く募集し、優れた作品を顕彰するメディア芸術の総合フェスティバルである文化庁メディア芸術祭。平成24年度〔第16回〕アニメーション部門の大賞作品である、大友克洋監督の「火要鎮（ひのようじん）」や、和田淳監督の「グレートラビット」など海外でも評価の高い受賞作品のほか、審査委員会推薦作品の中から日本の短編アニメーション作品を中心に、国内外で上映されている様々な表現手法の作品で編成した7作品、60分のプログラムを上映します。

日時：

9月14日（土）11：00～12：00、15：00～16：00

9月15日（日）10：00～11：00、16：00～17：00

上映作品一覧

作品名	作家名	賞	時間
ニュ～東京音頭	ぬQ	審査委員会推薦作品	5'00"
布団	水尻 自子	新人賞	6'02"
ぼくもくま	合田 経郎	審査委員会推薦作品	5'00"
就活狂想曲	吉田 まほ	審査委員会推薦作品	7'27"
グレートラビット	和田 淳	優秀賞	7'12"
夕化粧	胡 嫻嫻	審査委員会推薦作品	10'19"
火要鎮	大友 克洋	大賞	12'43"

プログラム監修：村上 寛光（東京藝術大学大学院映像研究科助教）

■マンガ閲覧コーナー

会場：炎の博記念堂

●作品一覧

作品名	作家名	受賞回	賞
鈴木先生	武富 健治	第11回文化庁メディア芸術祭	優秀賞
間の国々	ブノワ・ペータース／フランソワ・スクイテン 訳：古永 真一／原 正人	第16回文化庁メディア芸術祭	大賞
岳 みんなの山	石塚 真一		優秀賞
ましろのおと	羅川 真里茂		優秀賞
ムチャチヨ - ある少年の革命	エマニュエル・ルパージュ		優秀賞
GUNSLINGER GIRL	相田 裕		優秀賞
凍りの掌 シベリア抑留記	おざわ ゆき		新人賞
千年万年りんごの子	田中 相		新人賞
ぼくらのフンカ祭	真造 圭伍		新人賞

【お問い合わせ】

文化庁メディア芸術祭国内巡回事業事務局（一般財団法人NHKインターナショナル内）
TEL: 03-6415-8500 FAX: 03-6415-8502 E-mail: jmaf-info@nhkint.or.jp